

第二十六師団移動 玉津丸の航跡

第二十六師団（泉）編制 名古屋
終戦時はレイテ

独立歩兵第十一連隊（泉5314）
独立歩兵第十二連隊（泉5315）
独立歩兵第十三連隊（泉5316）

昭和十九年七月末日釜山到着
昭和十九年八月二日門司集結

ヒ七十一船団

レイテ防衛軍37,600名を乗せ出港

阿波丸、帝亜丸、摩耶山丸、香椎丸、能登丸、玉津丸、
日昌丸、二洋丸、瑞鳳丸、永洋丸、鴨緑丸 以上軍隊輸送
吉備津丸（途中反転引き返し）

能代丸、北海丸、旭東丸、第二八紘丸、帝洋丸、あづさ丸
以上油還送

護衛：平戸、倉橋、御蔵、昭南、藤波、#11海防艦、速吸、
伊良湖、夕凧、護衛空母大鷹

昭和十九年八月八日 門司出港 玉津丸は単独で馬公へ

昭和十九年八月十日 0500伊万里出港

昭和十九年八月十？日 玉津丸馬公到着

昭和十九年八月十五日 船団は馬公に到着

昭和十九年八月十七日 0800馬公出港 基準船：阿波丸

ここで二洋丸、第二八紘丸、鴨緑丸、伊良湖を分離

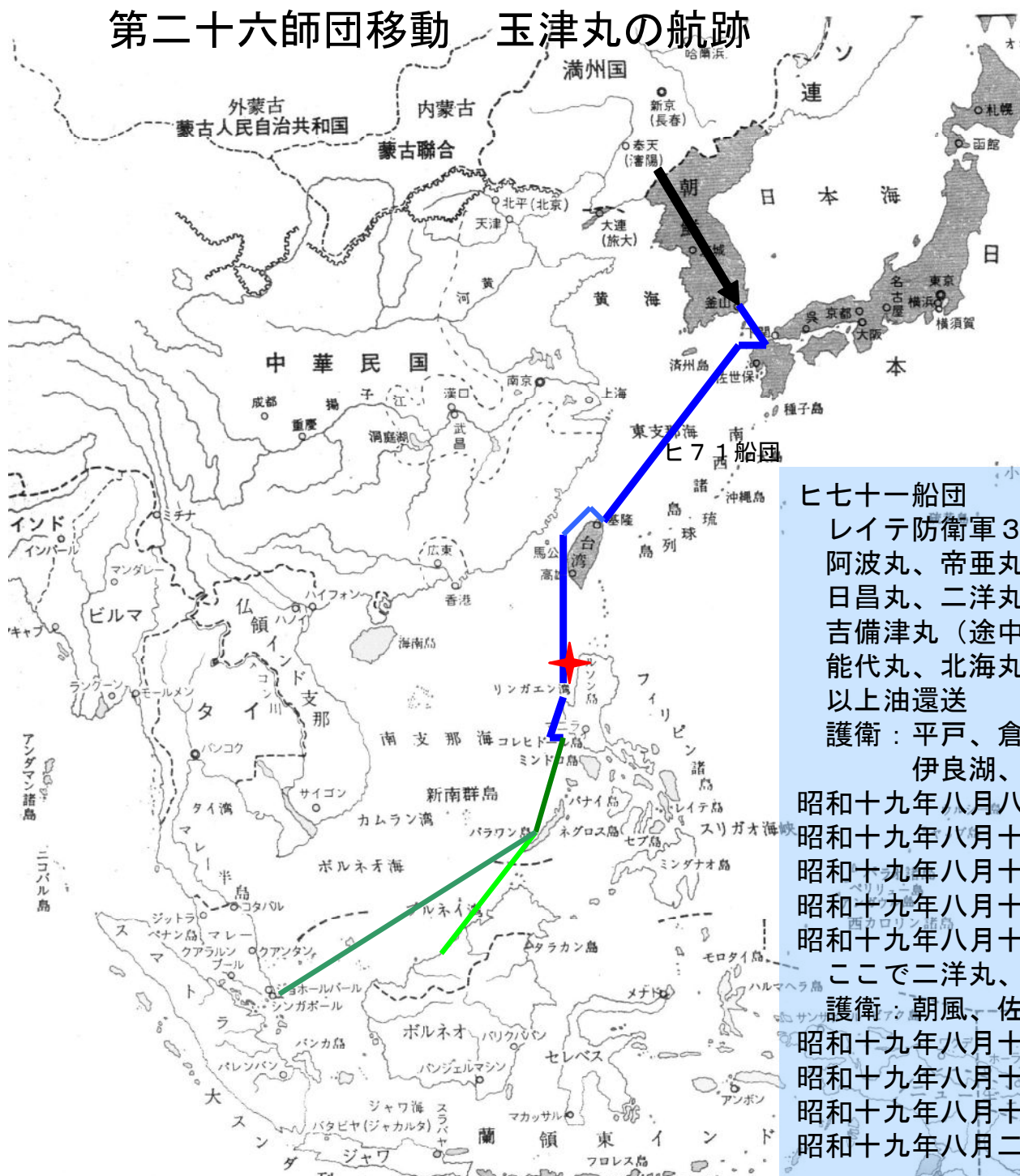
護衛：朝風、佐渡、松輪、日振、択捉が加入

昭和十九年八月十八日 2312帝亜丸 沈没

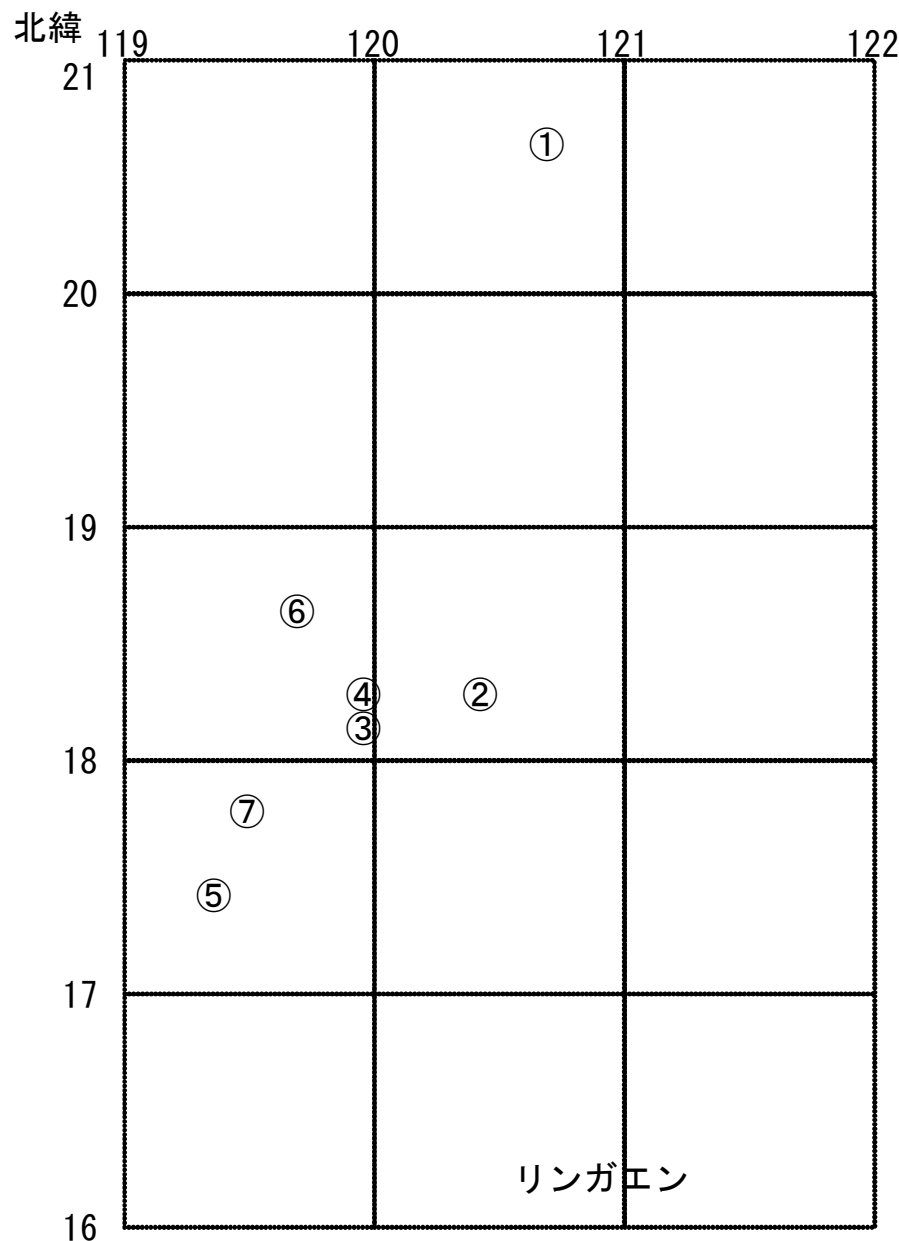
昭和十九年八月十九日 0430玉津丸 沈没

昭和十九年八月十九日 0510帝洋丸 沈没

昭和十九年八月二十一日 マニラ入港



各船概略被害位置



ヒ 7 1 船団

昭和19年8月10日 0500 伊万里出港

目的地 マニラ及びシンガポール

船団構成 吉備津丸、阿波丸、帝亜丸、摩耶山丸、香椎丸、能代丸、能登丸、北海丸、玉津丸、日昌丸、旭邦丸、二洋丸、第二八紘丸、瑞鳳丸、永洋丸、帝洋丸、あづさ丸、鴨緑丸、速吸、伊良湖 護衛：平戸、倉橋、御蔵、昭南、藤波、第11号海防艦、大鷹、夕凧、朝風、佐渡、松輪、日振、択捉 以上33隻

昭和19年8月18日～19日

①：永洋丸 0524 20-40N, 120-43E 小破

②：大鷹（春日丸）2220 18-16N, 120-20E

③：帝亜丸 2312 18-09N, 119-56E

④：阿波丸 0033 18-11N, 119-58E 小破

⑤：速吸 0320 17-34N, 119-24E

⑥：玉津丸 0430 18-49N, 119-47E

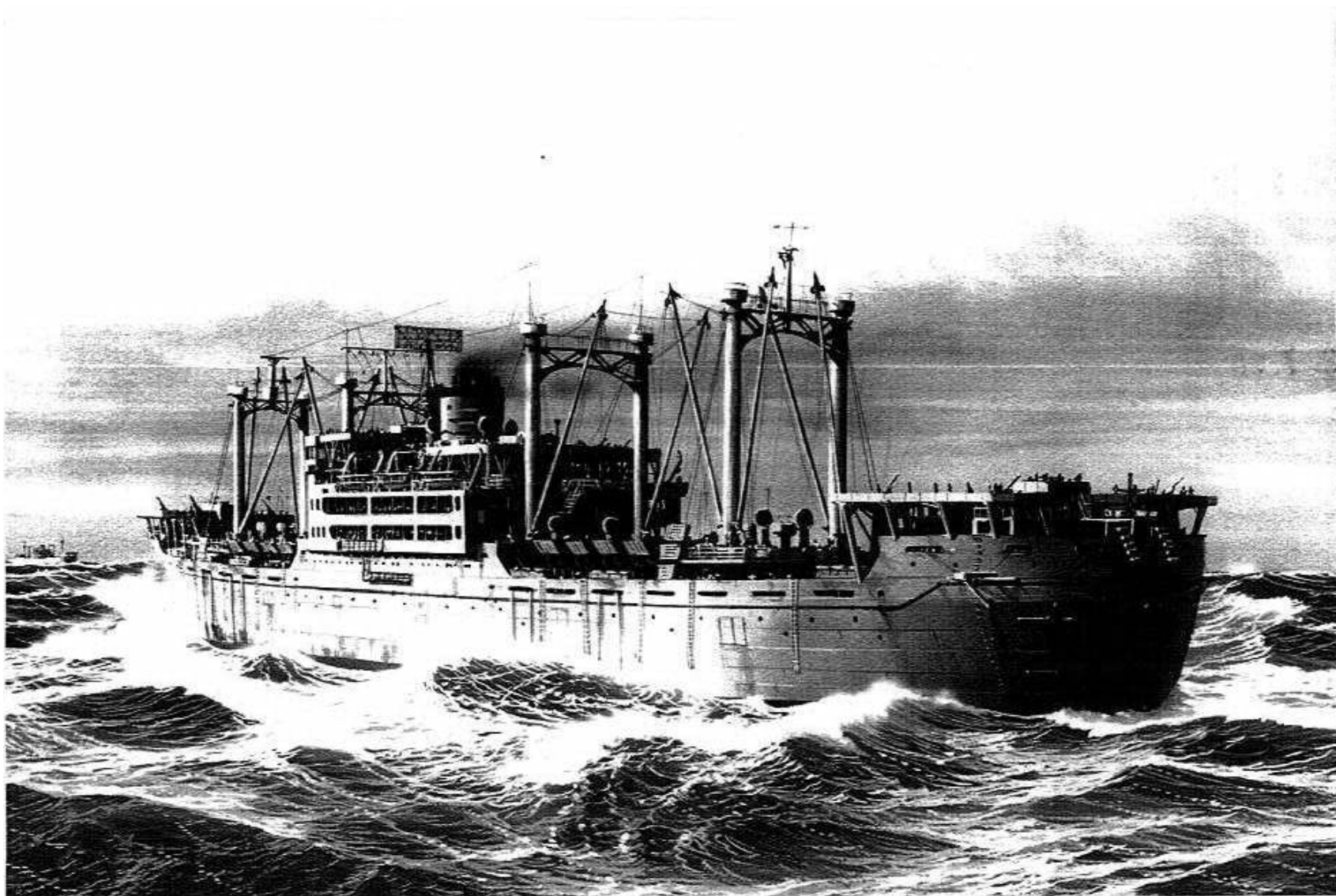
⑦：帝洋丸 0510 17-50N, 119-30E

被害を免れた油槽船5隻と護衛4隻は19日リングエンに入泊。その後21日マニラ入港

昭和19年8月26日1650 北海丸、あづさ丸、瑞鳳丸、阿波丸、旭邦丸5隻および平戸、倉橋、第二号海防艦、御蔵、藤波、第二十八号駆潜艇、第二十八号駆潜艇7隻マニラ出港

昭和19年8月27日1950 パラワン・マパンカルに仮泊ここで旭邦丸、第二十八号駆潜艇はミリに向かう。

昭和19年9月1日1356 北海丸、あづさ丸、瑞鳳丸、阿波丸4隻および平戸、倉橋、第二号海防艦、御蔵、藤波、第二十八号駆潜艇の全隻シンガポール到着



玉津丸 大阪商船 9,590総トン

要目：陸軍上陸輸送船（三井造船35年史）

陸軍上陸用輸送船（三井造船社史）

昭和17年11月4日 起工 昭和18年8月18日 進水 昭和19年1月20日 竣工

三井造船玉野314番船

全長140.0m 幅19.0m 深さ11.8m 速度（最高）20.45ノット 2軸 5400hp×2

玉津丸乗船部隊

昭和19年内地発航輸送船団記録

26D主力：第26師団（泉）

○／南方軍：南方軍司令部

12MACS：

7AC：

南方軍燃料本部

22SA主力：第22野戦重砲隊主力

5MACS：

155AL：第155観測隊

6F R：

1S航空地区司令部

独立重砲10大隊

4大？

假編独立速射砲19大隊

××野貨：

乗船者4459名、行方不明4408名

輸送船団遭難記録（B）

26D主力

○／南方軍

12MACS

70AC

南方軍燃料本部

22SA主力

5MACS

155AL

6FILR

1S航空地区司令部
大隊

假編独立速射砲19大隊

A野貨

生死不明4406名 大佐 安尾正綱

独歩三連隊

北緯17度30分、東経119度21分

戦時船舶史（C）

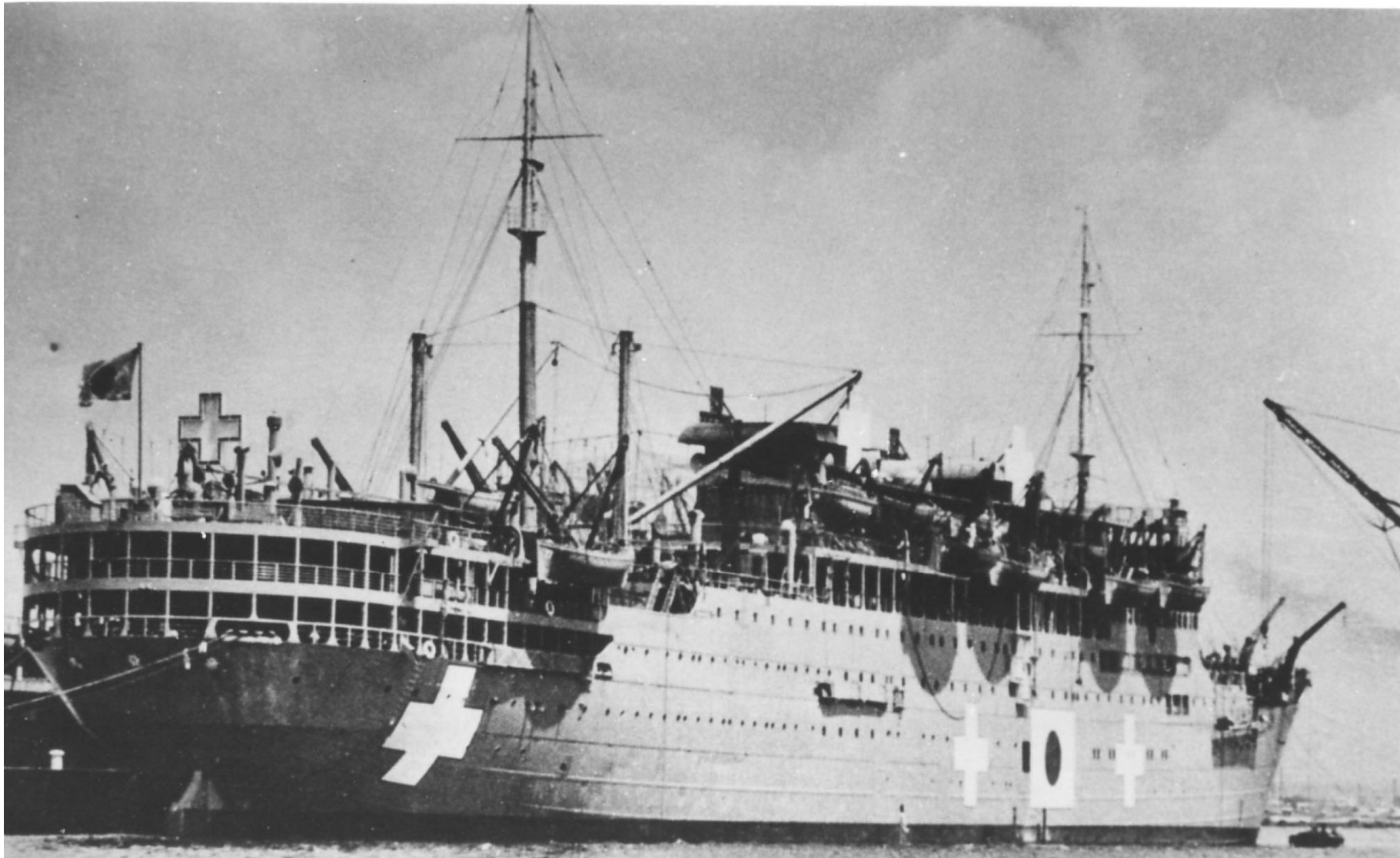
第二十六師団独立歩兵十三連隊 4820名乗船 4755名戦死

北緯18度49分、東経119度47分で被雷

米海軍ホームページ（D）

Submarine *Spadefish* (SS-411) sinks Japanese landing craft depot repair ship *Tamatsu Maru* west of Luzon, 18° 48' N, 119° 47' E.

戦没位置の差。(B)-(C)：83.2NM (B)-(D)：82.2NM (C)-(D)：1NM



帝亜丸 帝国船舶 17,537総トン

要目：1932年 竣工 旧Aramis

フランス MéditSにおいて建造

全長177.2m 幅20.97m 深さ8.4m 速度（最高）17ノット 2軸

昭和17年4月サイゴンにて拿捕、帝亜丸となる。

帝亜丸乗船部隊

昭和19年内地発航輸送船団記録 (A)

威補充員外 (東部23, 24, 27)

一般邦人

マニラ航空廠三航部要員

軍政部随員

乗船者4,936名

輸送船団遭難記録 (B)

威集団補充員

一般邦人

マニラ航空廠

三航空軍要員

軍政部要員

乗船部隊4,795名、内2,052名戦死

乗船軍人・軍属141名

乗船一般邦人286名

合計5,222名乗船

大佐 荒井康雄

北緯18度08分、東経120度13分沈没

戦時船舶史 (C)

2,665名戦死

内訳：軍人2,316名、船客275名、警戒隊6名、備砲隊4名、監視隊10名、船員54名

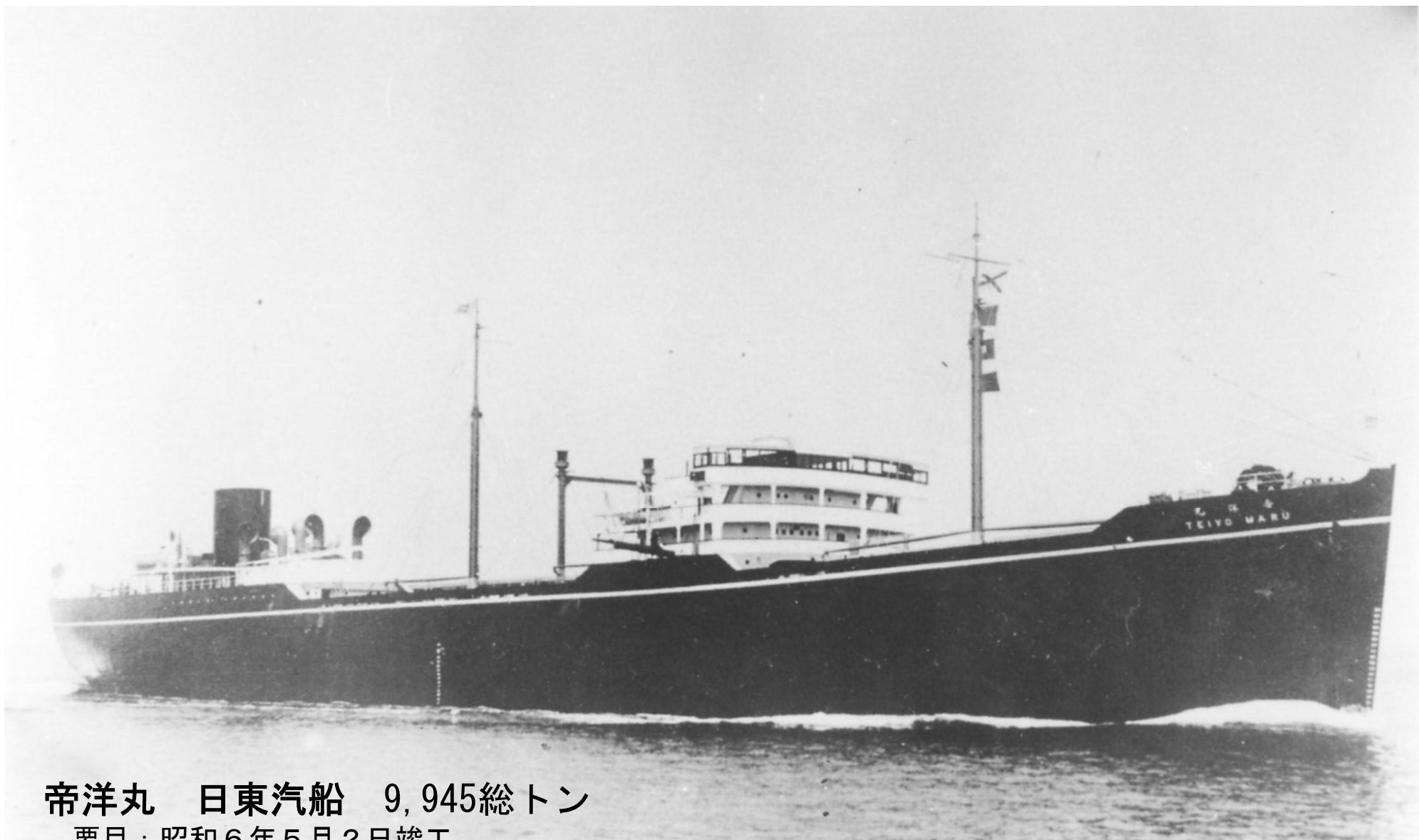
北緯18度49分、東経119度47分被雷沈没

米海軍ホームページ (D)

U.S. submarines *Rasher* (SS-269) and *Redfish* (SS-395) encounter Japanese convoy HI 71 off west coast of Luzon. *Rasher* sinks escort carrier *Taiyo*, transport *Teia Maru*, cargo ship *Eishin Maru* at 18° 16' N, 120° 21' E,

戦没位置の差。(B)-(C) : 48.5NM (B)-(D) : 11.3NM (C)-(D) : 63NM

参考 : MERCHANT FLEET 1939では18-09N, 119-56E



帝洋丸 日東汽船 9,945総トン

要目：昭和6年5月2日竣工

全長149.4m 幅19.5m 深さ12.0m 速度（最高）17ノット 2軸

乗船部隊

本船には部隊は乗船せず、昭南からの原油を内地に還送するため、ヒ71船団に加入。

昭和16年12月10日 呉において海軍徴傭。連合艦隊所属の給油船となり、キスカ島への補給任務も実施した。

沈没位置：北緯18度08分、東経120度13分